

1926(大正 15)年～2014(平成 26)年

## 1. 経歴・狭山市とのかかわり



山形県酒田市に生まれる。酒田市立酒田商業学校を卒業後、帝国石油(株)に入社。その頃、高村光太郎の『道程』を読み感銘を受ける。1944(昭和 19)年、徴兵検査に合格するが、入隊 5 日前に終戦を迎えた。戦後は労働運動に参加。1949(同 24)年に過労で倒れ、肺結核のため 3 年間療養した。入院中、詩人富岡啓二と交友し、詩作に目覚める。そして、詩誌『詩学』・『櫛』で活躍し、名声を上げる。

石油資源開発(株)への移籍を機に東京都板橋区に転居する。1962(同 37)年、会社を退社しコピーライターに転職する。その後は文筆を専業とした。

1972(同 47)年秋、狭山市北入曾に転居し、2007(平成 19)年に静岡県富士市に移るまで 35 年間に狭山市で過ごす。同所を題材にした詩集『北入曾』は、狭山市の文化遺産である。狭山市入間川の曹洞宗慈眼寺の墓地に静かに眠る。享年 87。

## 2. 主な業績

### ① 詩集や詩画集の出版・受賞

結婚披露宴で引用される「祝婚歌」を初めとして、国語教科書に掲載された「夕焼け」・「I was born」・「虹の足」などの代表作や、詩画集『10 ワットの太陽』がある。1972(同 47)年に『感傷旅行』で読売文学賞を、1990(平成 2)年に『自然渋滞』で詩歌文学館賞を受賞する。

### ② 合唱組曲・社歌・校歌などの作詞

「心の四季」・「風光歌」などの合唱組曲だけでなく、母校の酒田市立琢成小学校や、狭山市立入間野中学校、埼玉県立所沢中央高校などの校歌も作詞する。

### ③ 投稿詩の選者・編集委員・講師

読売新聞の詩壇・読者文芸詩部門・『高一・高二コース』など、投稿詩の選者を担当する。『文芸さやま』の編集委員を務め、入間公民館(現・入曾地域交流センター)で文学講座を開催する。

### ④ その他

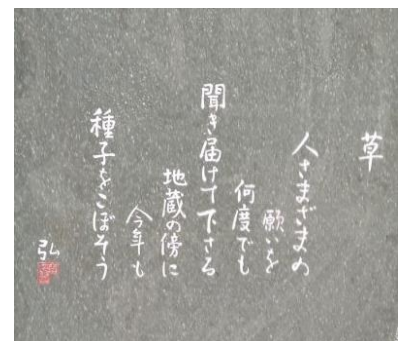
随筆や評論でも多くの出版物があり、書画にも造詣が深かった。

## 3. 特筆

① 狭山市は、2018(平成 30)年 11 月 22 日から婚姻届を提出した夫婦にオリジナル婚姻記念証として「祝婚歌」を贈呈している。

② 戦争、労働争議、結核の 3 度の試練により、何としても生きなくてはならない」という決意が起き、詩の制作意欲に繋がった。

③ 何気ない日常や光景の中で生きる人間の弱さや優しさ、温かみを分かり易い平易な言葉で描いた。



慈眼寺の墓にある詩「草」

(参考文献)『吉野弘の世界』『詩と批評』『吉野弘全詩集』